

平成 19 年

11 月

No. 529



広 報

いいいたて

<http://www.vill.iitate.fukushima.jp>

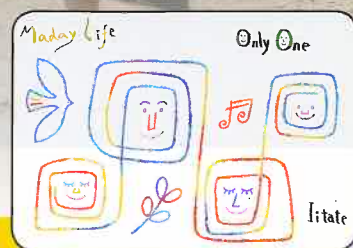


おきつないで「宝拾い」

10/7

— 第44回村民体育大会 —

「第44回村民体育大会」が2年振りに開催され、子どもからお年寄りまで多くの村民が参加しました。大会ではハッスルプレーが続出し、会場は大いに盛り上がりました。(関連記事 10～11 ページ)

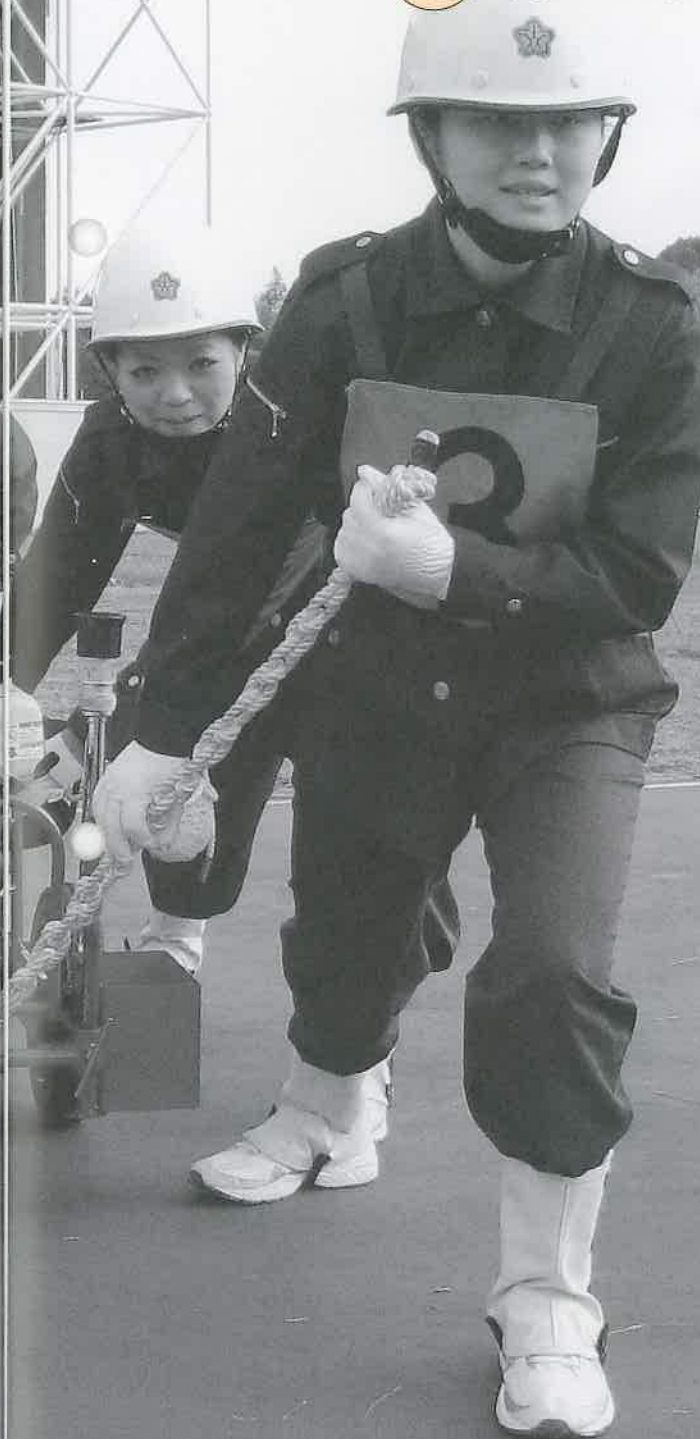


大いなる田舎 まていうイフ・いいいたて

飯舘村女性消防隊

全国大会で堂々の**7位入賞!!**
(優良賞)

10/25 第18回全国女性消防操法大会



神奈川県横浜市の日本消防協会中央消防訓練場で開催された「第18回全国女性消防操法大会」に、福島県代表として初めて出場した飯舘村女性消防隊。
大会では、選手たちが抜群のチームワークで見事な操法を披露し、7位入賞（優良賞）という快挙を成し遂げました。

第18回全国女性消防操法大会

大舞台で見事な 操法を披露

「全国女性消防操法大会」は、(財)日本消防協会が女性消防隊の消防技術向上を図り、地域での消防活動の充実に寄与することを目的に、近年は2年に1度開催しています。

今大会には各都道府県の代表47チームが出場。大会では2チームずつ競技し、軽可搬ポンプを使い、ホースを3本つないで60メートル先の標的

(ビーチボール)を放水で落とすまでのタイム及び規律と節度を競います。

14組目に登場した飯館村女性消防隊の選手たちは、全国大会の雰囲気を感じることなく、初出場の大きなプレッシャーをはねのけ、大舞台で訓練の成果を存分に発揮しました。結果、タイム57秒29、得点81・5点で見事に7位入賞を果たし、優良賞を獲得しました。

また、会場には村消防団幹部や各行政区の女性

消防隊員、選手家族など約40人が駆けつけ、選手たちを応援しました。

厳しい訓練が 実を結ぶ

飯館村女性消防隊は今年4月に出場選手を決定し、消防団員や分署職員らの指導の下、連日連夜にわたり厳しい訓練を重ねてきました。

「練習してきた全てを本番で発揮したい」という選手たちの強い思いと、約7ヵ月間にわたる努力と苦労が、全国7位という素晴らしい結果につながりました。

同大会での福島県勢の入賞は、相馬市(昭和60年・12位)、本宮町(現本宮市)(昭和63年・5位)、岩瀬村(平成7年・6位)、平田村(平成9年・11位)に次いで5回目です。



▲代表して表彰状を受け取る石川指揮者

大会結果(入賞のみ)

順位	都道府県	消防隊名	タイム	得点
優勝	岐阜県	恵那市女性消防隊	51.18	98.0
準優勝	秋田県	大館市女性消防隊	54.89	88.0
準優勝	鹿児島県	出水市女性消防隊	55.96	87.0
優秀賞	大阪府	豊中市女性消防隊	56.69	86.0
優秀賞	茨城県	常陸大田市女性消防隊	56.93	86.0
優秀賞	福岡県	宗像市女性消防隊	57.38	84.0
優良賞	福島県	飯館村女性消防隊	57.29	81.5
優良賞	鳥取県	若桜町女性消防隊	61.78	80.0
優良賞	埼玉県	川口市女性消防隊	55.18	79.5
優良賞	熊本県	人吉市女性消防隊	58.18	79.5
優良賞	徳島県	鳴門市女性消防隊	56.84	77.5
優良賞	香川県	丸亀市女性消防隊	57.69	77.0



▲選手たちを激励する細谷康久福島県消防協会長



▲選手たちの健闘をたたえる菅野村長



後列左から
4番員・菅野さよ子(飯桶町)
2番員・佐藤智江(関根・松塚)
高橋美佐子隊長(伊丹沢)
補充員・庄司るり(白石)
前列左から
3番員・古林美保(飯桶町)
1番員・菅野真緒美(前田・八和木)
指揮者・石川幸枝(此曾)

指揮者・石川 幸枝 正直、全国大会7位入賞という

実感はありません。むしろ、今まで練習してきた日々が鮮やかに思い出されます。親切で熱心に指導してくださった分署職員や指導員の皆さん、たくさんの方の応援をいただきました女性消防隊員や消防団の方々に心から感謝しています。

1番員・菅野真緒美 大会で、緊張のあまり歩数が多くなりホースを引っ張ってしまっただけで、練習の中で色々とあり、挫折しそうになった時もありましたが、多くの皆さんの励ましがあつて続けることができました。「操法大会に出場しないか」と声をかけてくれた高橋隊長には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

2番員・佐藤 智江 自分が担当した2番員は重要な立場で、失敗してはならないプレッシャーの中での練習は本当に辛かったです。自分の中では悔いのない大会でした。これも根気強く指導してくれた皆さんのおかげです。大会が終わった今、精神的にも強くなった自分があります。本当に良い経験になりました。

3番員・古林 美保 何も分からない状態でのスタートは、不安もあったし期待もありました。大会が近づくと「本当に自分は全国大会に出場できる資格があるのか」と悩んだ時期もあり、そのせいか体調を崩す事も多く、メンバーにはたくさん迷惑をかけてしまいました。このような体験はもう二度とできないと思うので、本当に貴重な経験をさせていただきました。

4番員・菅野さよ子 「ホッとした」。大会が終わって一番に思った事です。最初は、隊長の困っている姿を見てしんどい引き受けたというのが本音でしたが、練習しているうちに楽しくなりました。息子に「また行くの?寂しい」と言われて困った時もありましたが、その息子が練習を見に来て以来、「行ってらっしゃい、

頑張つてね」と声をかけてくれるようになりました。今は出場できて本当に良かったと思っています。

補充員・庄司 るり 全国大会出場というとても貴重な体験ができ、大会を楽しむ事ができました。プラカードを持つての開会式では緊張しすぎて体が棒のようになつてしまいました。大会で良い結果が残せたのも、家族や地域の方々の温かい励まし、指導してくださった方々の熱い思い、個々の努力の成果だと思います。

高橋美佐子飯館村女性消防隊長 昨年、県から今年の全国大会に出場するよう要請があり、飯館村女性消防隊が出場することになりました。一番困った事は選手としての選考でしたが、各分隊長さんの協力をいただき選手を選ぶことができました。練習期間が長く、家庭の都合で8月に2人の選手が入れ替わる事もありましたが、選手一丸となって臨んだ結果、全国7位の優良賞に輝く事ができました。これからも地域の予防消防に努めていきます。

本間英世飯館分署長 全国各地の代表チームの前で、堂々と自分たちの競技をした飯館村女性消防隊に誇りを感じました。この功績は、選手たちの努力はもちろん、消防団長をはじめ指導員並びに消防団幹部、女性消防隊幹部の皆さん、そして家族の皆さんなど多くの方々の協力があった結果だと思っています。第18回全国女性消防操法大会は、飯館村女性消防隊の歴史に刻まれ、決して消えることはないでしょう。感動をありがとう!

荒利喜飯館村消防団長 女性消防隊の皆さん、優良賞誠におめでとうございます。今回の受賞は選手たちの努力はもちろん、分署職員や消防団訓練担当の熱意あるご指導、そして選手のご家族はじめ村消防団、女性消防隊各分隊長さんの誠意あるご支援、ご協力のおかげです。今後とも尚一層、地域の防火・防災にご精進くださるようお願いいたします。